

---

# 桃色トライアングル「もうすぐ会えるね。」連載リスタート直前、3人の恋人座談会！

OH林檎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

桃色トライアングル 「もうすぐ会えるね。」連載リスタート直前、3人の恋人座談会！

### 【Nコード】

N5151T

### 【作者名】

OH林檎

### 【あらすじ】

主人公は

月曜日の恋人⇨優しさ溢れる笑顔がキュートな同級生  
水曜日の恋人⇨バリタチゲイで何かとイジワルな先輩  
金曜日の恋人⇨謎だらけの美しい准教授  
の3人と運命的な出会いをします。

あなたならどの恋のルートを選びますか？

FC2ブログ

恋愛小説（仮）

にて連載中の小説です。

2010・12まで連載していた

『桃色』のリスタート版になります。

月水金の週三回更新で

時間の流れと登場人物はほぼ同じですが  
曜日ごとに発生イベントは異なります。

お気に入りを決めて恋をするもよし、  
貪欲に3人と恋をするもよし…。

決めるのはあなたです。

本作は『桃色トライアングル』の予告編になります。

「あれ？まだ、誰も来てないの？  
僕がいちばん？」

「んー、どこ座る。」

「そのソファもいいけど、

うっかりあの人の隣になるのも嫌だし、

こっちの一人掛けの椅子にしようかなあ。

「うーん、

どうしよっ…」

「優太、何つろつろしてんだ？」

「あ、先輩！待ってたよ！」

「待ってたって、

そんな嬉しそうな顔すんなよ。

「抱きしめたくなるだろうが。」

「ん？先輩、なんだか口調変わってない？

「去年の年末までは

「もうちょっと丁寧な感じじゃなかった？」

「そういうお前だって、

「ますます可愛さに磨きがかかって…」

「おい、気持ち悪いぞ、そこの2人。」

「げ、二ノセン！」

「先生、来たんだ…。」

「来ちゃ悪いか。」

「て、そっちのホモ野郎、」

「二ノセンとか勝手に略すな。」

「く、くち悪っ…。」

「ホモとか言ってるんじゃないぞ、」

「この引き籠り教師が！」

「ホモにホモって言って何が悪い。」

「ホモじゃねえ！」

「俺はゲイだ！」

「いや、先輩…。」

「そこは声を大にして言う所じゃないから…。」

「続く…かも？」

「とりあえず座りませんか？」

「」

「」

「おい。そこには俺と優太が座るんだよ。

二ノセンは

アツチの一人掛けでいいじゃねえか！」

「俺様の脚は長い。

そんな椅子で収まる訳ないだろ。」

「はあ!?!」

「あ、あの、先生？

だからといって、

そんなにゆったり座られたら……」

「俺らのどつちかに、

立つとけつつつうのかよ!」

「それが嫌なら、

膝の上でも乗せておけ。」

「お!二ノセン、

たまには良いこと言っじゃねえか!

優太、来い!……!」

「来いじゃないって、先輩!

ポンポンって膝叩いても行かないから。  
だめっつ!」

そんな哀しそうな顔してもっつ！」

「ちえっつっ!」

「(ちえっつっ!とか、

子供ですかあなたは?)

僕、ここに立ってるからいいよ。

早く座談会始めましょう。」

「立ってる奴がいるのに

座談会は出来んだろう。」

「「あなたのせいじゃないかっつ!」」

続く…のかな？

「ありがとうございます。」

「いえ、この位置でよろしいですか?」

「はい。(いつでも逃げられるように)  
扉の前でお願いします。」

「かしこまりました。」

ところで、

ご注文はいかがいたしましたか？

当店は

フードメニューも充実しておりますが。」

「だって。

どうします？何か食べます？

って、この椅子座り心地いいなあ。

一点モノですか？」

「左様でございます。

よくお分かりで。」

「うん。僕、家具屋廻りが趣味なんで。」

「へえ。それは初耳だな。

今度俺も連れてけよ。

ふたりの為のダブルベッド見に行こ

「エスプレッソ。」

「じゃあ、僕は、

ソイ・ロイヤルミルクティー！

…出来ます？」

「もちろん。」

「あと、

焼きたてのワッフルなんかあつたら最高！」



「ホットチェリーソースでよろしいですか？」

「やったあ」

「…おい、お前ら。」

俺を丸ごと無視してんじゃねえ。」

「うん、ホント美味しい！」

焼き方もソースの甘さも絶妙！」

「お褒めに与り光栄です。」

「僕、常連になっちゃお！」

「いつでもお待ちしております。」

「…あいつ、俺と同じ組合のヤツだな。」

「え？」

「ホモ部か…」

「ホモじゃねえ、

ゲイだっつってるだろうが！」

「どっちでもいい。」

「このエスプレッソの味は確かだ。」

「うわ！先生も褒めることあるんだ！」

「当たり前だ。」

「人をロボット扱いするな。」

「ふうん。そつか。」

「そつだよね！」

「ロボットはエスプレッソ飲まないもんね！」

「ふん。」

「あ、今笑った？」

「ねえねえ、先生笑ったでしょ？」

「笑うと案外かわいい感じになるんですね！」

「…だから、お前ら」

「俺と」

「俺が頼んだカルピスを見殺しにするんじゃないやねえって！」

もう一回だけ、続く…でしょう。

「もうそろそろ、締めなきゃですよね？」

「まだ、なんも話してねえぞ。」

「宣伝的なしとくべきだったんじゃないの？」

「…べつに構わんだろ。」

「本編読めば済む事だし。」

「俺はそろそろ行くぞ。」

「お前らと違って忙しいんだ。」

「ああ、ちょっと待って下さいよ！」

「質問カードを預かってて、」

「いくつか答えてもらわないと！」

「…先に出せ、そういうものは。」

「あは、すみません。」

「オシャレカフェに気持ちがいっちゃって。」

「イツちゃってなんてヤラシいな、優太。」

「今度は俺が何回も言わせ。」

「早くしろ、その質問とやらを。」

「はい。ではいきますね。」

「…また、スルーかよ。」

「質問1。」

「金曜日の恋人に選ばれた感想は？」

「…別れない。」

「そ、そうですね。」

「あ、えーっと、じゃあ、質問2。」

「ズバリ意気込みを聞かせて下さい！」

「…別れない。」

「お前はエ カ様かつっ！」

「(…そのツッコミは古いよ、先輩。)

では最後に、

応援してくれる読者さんにメッセージを！

先生、これだけはちゃんとお願いします！」

「こんなもの読んでる暇があるなら、

英単語の一つでも覚えろ。」

「「……………」」

「は、

あんなつまんねえ答えで帰るかね、フツ。」

「先生らしいと言えば、らしいケド（笑）」

「よし！そんなじゃ、俺がバツチリ答えてやるよ！」

「（…不安、ものすごく不安。）」

「質問1。」

「水曜日の恋人に選ばれた感想は？」

「えつつ！」

「は？それだけ？」

「だってよぉ、そうだろ？」

「俺、ゲイだぜ？」

「女と何をどうしろと。」

「まあ、そうだけど…。」

「ホラ、次、次！」

「う、うん。じゃ、質問2。」

「意気込みを教えて、先輩。」

「この話乗っ取ってBLに路線変更する！  
もちろん相手はお前だぞ、優太。」

…っつて、

何でちよっとずつ椅子が動いてんだよ。

そのままじゃ、廊下に出ちまうぞ。」

「（そうしてるんですっつてば）

…んじゃ、最後ね。

応援してくれる読者さんに

メッセージ、さっさと行って。」

「何か急に冷たくなってねえか？」

「気のせい。」

「そっか？」

「うん。だから早く。」

「お、おう。」

それじゃ…。

愛してるぜ、優太。」

「…お疲れさまでした。」

「お待たせ。」

僕はまともに答えるからね！

(先輩も無理やり帰したし。)

質問1!

月曜日の恋人に選ばれた感想は？

光栄だよ。

すっごくね。

だけど、正直戸惑ってる。

僕は誰かとステイになる気はないからさ。

申し訳ないけど

彼女が僕に恋をしたなら、

片想いに終わると思う。

先に謝っておくよ。

ホント…ごめんね。

じゃあ、次の質問。

ズバリ意気込みを聞かせて下さい！

か。

うー…ん、そうだな…。

恋人にはなれないから、

友達として思いっきり優しくしてあげる。

そういう部分での

癒しを感じてもらえるように

がんばるよ。

最後に

桃色トライアングルを応援してくれるみんなへ。

僕からこの物語はスタートなんだよね。  
責任重大で今すごく緊張してる。  
でもさ、とつても楽しみでもあるんだ。  
だって、また、  
みんなと会えるんだもんね。  
明日ここで待ってるから。  
僕に会いに来てよ。  
それまで、ちよつとの間…  
ばいばい。」

「もうすぐ会えるね。」連載リスタート直前、3人の恋人座談会！

～END～



(後書き)

本編『桃色トライアングル』も  
引き続きお楽しみください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5151t/>

---

桃色トライアングル「もうすぐ会えるね。」連載リスタート直前、3人の恋

2011年6月11日13時45分発行